【仮訳】

G7 CVO（首席獣医官）フォーラム（令和 5 年 9 月）
議長サマリー

背景

日本が G7議長国を務めている間、我々、カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、日本、英国及び米国並びに欧州委員会、国際獣疫事務局 (WOAH) 及び国連食糧農業機関 (FAO)の首席獣医官 (CVO)及び代表は、2023 年 9 月 21 日に東京で会合を行い、アフリカ豚熱 (ASF) 、薬剤耐性 (AMR) 、高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) がもたらす喫緊の課題について議論した。これらが我々の経済、公衆衛生及び食料安全保障にもたらす世界共通の負担を認識し、我々は、動物の健康を保護し、食料安全保障を確保し、これらの脅威の影響を世界的に緩和するために、ASF、AMR、HPAI と闘うという我々のコミットメントに結束して取り組む。

本会合において、以下の議論が行われた。

＜ASF＞

●バイオセキュリティ、サーベイランス、キャパシティ・ビルディング

我々は、強靭かつ持続可能な動物衛生システムの構築が不可欠であることを認識する。強固なバイオセキュリティ、効果的なサーベイランス、及び早期警戒システムを含む動物衛生に係る能力を強化することは、いのしし、汚染製品、生きた動物や人的要因によって広がる可能性がある ASF の影響を低減するために不可欠である。

●農業システムとゾーニング（地域主義）

裏庭飼育を含む農業システムの多様性がもたらす課題は、個別に仕立てた戦略の必要性を示している。我々は、疾病のまん延を緩和するための予防的な個体数減少等の成功したアプローチを支持する。ゾーニングは、貿易上の混乱を防ぎつつ、農場レベルを超える効果的な制御ツールとして、疾病疫学及び地域の状況に適応することが可能であるべきである。また、コンパートメント主義に関する更なる議論は、有益となる可能性がある。

●ワクチン開発

ASF は世界の豚肉生産にとって重大な脅威であり、たゆまない科学的努力にもかかわらず、いまだ有効なワクチンがない。ASF ワクチンは我々の手の届く範囲にあるのかもしれないが、最適ではないワクチンに関連するリスクを回避するため、安全性評価や警戒監視体制の

確立を含め、フィールドでの使用前に慎重な検討がなされるべきである。各国政府や国際機関は、ASF ワクチン開発の進展を促進する上で極めて重要な役割を果たす。各国政府による研究開発への財政的支援及びワクチンの承認・認可に係る国際基準の適用は、重要なイニシアティブとなり得る。

●認識と準備体制

我々は、農業従事者、狩猟者、獣医師、輸入業者、国境検疫当局職員を含む関係者の間で ASF に関する認識の醸成や協力の重要性を強調する。疾病の特徴、サーベイランス情報、臨床徴候、鑑別診断及びバイオセキュリティ対策に関して更に理解を深めることは、早期の発見及び対応に不可欠である。さらに、発生を効果的に制御するための最新かつ適応可能な緊急時対応計画の価値を認識する。

●国際協力

我々は、ASF との闘いにおける国際協力の重要性を確認する。越境性動物疾病の漸進的制御のための FAO と WOAH のグローバル・フレームワーク (GF-TADs) のようなプラットフォームは、情報交換と経験の共有を促進する。我々は、地域、世界レベルで準備及び対応体制を強化するための国際協力メカニズムについて、支援と強化に尽力する。

＜薬剤耐性（AMR）＞

●抗菌剤に頼らない疾病予防

我々は、抗菌剤の使用を低減するため、疾病予防の重要性を再認識する。我々はまた、疾病予防のために、バイオセキュリティ対策の強化の必要性を強調する。我々は、獣医師及び獣医関連準専門職が治療から予防にシフトするために必要なツールとして、ワクチンの開発及び高品質な承認ワクチンの安定供給を支援することに尽力する。

●抗菌剤の責任ある慎重使用

我々は、抗菌剤の責任ある慎重使用に重要な役割を果たす獣医師及び獣医関連準専門職を支援することに尽力する。獣医師及び獣医関連準専門職は、迅速かつ費用対効果の高い診断ツールと動物疾病を診断するためのそれらツールを用いた教育と経験を必要としており、このことが病気の動物を治療するための適切な抗菌剤選択を支援することになる。
また、抗菌剤の責任ある慎重使用の推進には、獣医師だけでなく、あらゆる関係者による AMR 問題についての理解が必要である。このため、畜産農家、ペット所有者、消費者を含むすべての関係者による抗菌剤の責任のある慎重使用への理解を進めていく。

●ワンヘルス・アプローチの推進

持続可能な未来に向けて、抗菌剤の有効性を維持するため、すべてのセクターの誰もがAMR との闘いに協力しあう必要があることは周知の事実である。我々は、統合されたワンヘルス・サーベイランスの強化及び共有を支援し、ゲノム解析等の全ての利用可能なツールを用いて、ヒト、動物及び環境における細菌株間の疫学的関係を分析していく。

●国際協力・連携の推進

我々は、AMR との闘いにおける国際協力の重要性を確認する。我々は、マルチパートナー信託基金に対する支援の検討を含む、Quadripartite による地域及び世界レベルでの国際協力を引き続き支援する。

＜HPAI＞

●現在の課題と共通の懸念

近年の HPAI の世界的な発生の急増は、かつてないレベルで、家きん産業及び動物衛生サービスに対する深刻な社会経済的影響並びに野生動物集団に対する環境的な影響を及ぼしている。これは、本疾病の進化していく性質を裏付けている。我々は、ウイルスの拡散における渡り鳥、農業環境、野生動物の複雑な相互作用を認識している。我々はまた、HPAI の潜在的な人獣共通感染の重要性を認識しており、動物、ヒト及び生態系の健康を保護するためのワンヘルス・アプローチが必要であることを理解している。

●バイオセキュリティとサーベイランスの強化

我々は、厳格なバイオセキュリティ対策が HPAI 予防の基礎であり続けるという考えを支持する。野生動物の侵入防止や敷地内外の水場への野鳥の接近防止を含む農場のバイオセキュリティを強化し、疫学調査の情報に基づく革新的な戦略を採用することにより、侵入と水平伝播のリスクを大幅に低減し、殺処分の影響を低減することができる。即時的な対応に不可欠な早期警戒が可能となるように、強固なサーベイランスシステムは、全国的な標的を絞った野鳥モニタリングを含むべきである。この点について、我々はまた、世界レベルでの迅速な情報共有を確保するために、WAHIS のような効果的なツールの持続的な使用を奨励する。また、我々は、OFFLU（注：WOAH と FAO により設立された動物のインフルエンザに関する専門家ネットワーク）によるリスク評価や情報共有等の活動を嘉賞する。

●補完的なツールとしてのワクチン接種

WOAH の基準に沿ったワクチン接種は、健全なサーベイランスに基づき、地域的要因を考慮した補完的な疾病制御ツールであることを強調する。いくつかの国で実施中のワクチン接種試験や計画されている実地でのワクチン接種は、データに基づく意思決定や情報共有の重要性を強調する。我々が前進するにつれて、リスク評価の一部としてワクチン接種の結果

を評価し、安全な国際貿易を維持しつつ、家きんや野鳥、そして人間を保護するという我々の目標と整合させることに尽力する。

●国際協力と世界戦略

　我々の国際協力へのコミットメントは、国際機関と各国当局の連帯した努力によって強調されている。この点について、我々は、世界的な連携を調整する上での Quadripartite のコミットメントを嘉賞する。我々はまた、WOAH 及び FAO が主導する HPAI に係る世界戦略の改訂に専念することを再確認する。